

## ●高木レクチャー 小林俊行

2025年10月18日（土）、19日（日）に東京大学数理科学研究科棟において第25回「高木レクチャー」が行われました。

高木レクチャーは、本学理学部数学教室の教授であった高木貞治先生のお名前を冠した定期講演会です。2020年からコロナ禍のために中断していました。

今回ようやく再開できた高木レクチャーは、日本数学会と東大数理の主催、JJMと日仏数学連携拠点の協力で行われました。石毛和弘日本数学会理事長のスピーチで開会し、約160名が参加しました。

アーロン教授（プリンストン大学）

カッセル教授（フランス高等科学研究所）

ウーディン教授（ハーバード大学）

「グラフ符号の理論：問いと結果と手法」

「リー群の離散部分群と固有な作用」

「AD<sup>+</sup>双対性プログラム、HOD予想とUltimate-L予想」



石毛和弘教授



ウーディン教授と酒井拓史教授（座長）

準備と当日の運営では、組織委員（下の写真5名と河東泰之教授）に加えて、中川亜紀さん、吉村明日香さん、ポスドク・大学院生・大学院卒業生や日本数学会事務局の長谷川暁子さんなど多くの方々に協力していただき、その活動が支えられました。

講演の様子は麻生和彦助教・橋本真吾さん・柴田明秀さんらによる東大数理ビデオアーカイブス・プロジェクトの協力により撮影・記録され、ウェブで公開されています。



左から：熊谷隆教授、小野薫教授、小林、カッセル教授、アーロン教授、ウーディン教授、中島啓教授、高藤毅教授

### 【高木レクチャー】

「日本の現代数学の父」と呼ばれる高木貞治の名を冠し、2006年11月に創設された講演会。新たな数学の創造に寄与することを目的に、現代数学の最高峰の講演者を招いて年2回、春と秋に行われる。講演は、その分野の専門家に対してではなく、数学の広い分野の学生・研究者を対象に1時間×2回の形で行われる。

### 【高木貞治】

1875—1960。数学者。東京帝国大学卒業後、23歳でドイツに留学。ゲッティンゲンで世界の優秀たちに出会い、大きな刺激を受ける。帰国後26歳で東大助教授となり、4年後に東大教授就任。代数的整数論の研究で『高木類体論』（1920）を発表、ヒルベルトらの類体の概念を一般化した。「数学のノーベル賞」といわれるフィールズ賞の第1回選考委員（1936年）として世界5人の中の1人に選ばれている。図書室の入口に肖像がある。